

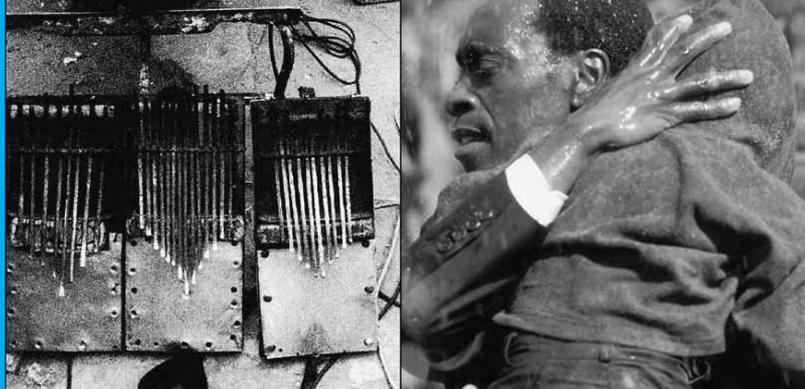
vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

7 JULY 2006

CONTENTS

- コノノNo.1 & ホテル・ルワンダ 1、2
最近の公演から 2
ネットマ meets 水戸市民会館 3
プロムナード・コンサートの小部屋 &
インフォメーション 4



写真上・左:コノノNo.1が使用する「電気親指ピアノ」
上・右:映画『ホテル・ルワンダ』
下:水戸市民会館

アフリカ大陸から、人間の生命力を呼び覚ますリズムの饗宴をお届けします。

8 / 24(木)『アフリカ電気親指ピアノバンド コノノNo.1』+ 7 / 23(日)映画『ホテル・ルワンダ』上映

真夏の祝祭、ふたたび!

2003年8月、いつ果てるともないアンコールの末、とうとう高々とヴァイオリンを掲げた演奏者たちが客席内をねり歩いた「タラフ・ドゥ・ハイドゥークス」。2004年8月、満場の客席が最後には総立ちで踊る熱狂のコンサートが終わった後、エントランスホールで「第2部」がはじまり、輝かしいブラスの響きが夏の夜空にこだました「ファンファーレ・チオカリア」。水戸芸術館音楽部門・夏の伝説コンサート(自称)、2年ぶりにお届けするのはアフリカ大陸コンゴからやってきた超絶の電気親指ピアノ・バンド、「コノノNo.1」!

...と盛り上がって見ましたが、このコンサート、まだまだ多くの方々にとって、いくつかの「？」があるようです。今月号のvivoではまずその「？」のいくつかにお答えし、次号でより深く彼らの音楽に迫りたいと思います。また今号では、関連企画である映画『ホテル・ルワンダ』上映についてもご案内しましょう。

鍵盤楽器+打楽器=「親指ピアノ」?

今回のコンサートは、人類発祥の地、アフリカ大陸の音楽をお届けする企画です。水戸芸術館音楽部門で、アフリカ大陸の音楽を本格的に体験していただくのは、1992年、『現代音楽を楽しもう』シリーズに登場したエジプトのハムザ・エルディーン以来。アフリカ大陸と一口で言ってもなにせ広大ですから、その音楽は地域によってまるで

異なります。今回の「コノノNo.1」も、ワード弾き語りでアラブの要素をふんだんに備えたハムザ・エルディーンとはまったく違うタイプのアフリカ音楽です。

その特徴をひとことで言うならばまずは**リズム!** **ビート!**ということになるでしょう。私たち人間の原始の本能を呼び覚まし、生命力を取り戻してくれるリズムの力。その最高に洗練された姿を、「コノノNo.1」は体験させてくれます。

それにしても「親指ピアノ」って、何なのでしょう? それも「電気」って? どうぞ上の写真をご覧ください。長さの違う細長い鉄片が並んだ不思議な楽器がありますね。これが「親指ピアノ」です。鉄片の片方は本体に固定されており、この「鍵盤」を両手の親指ではじいて演奏するのです。アフリカでは非常にポピュラーな民俗楽器で、コノノNo.1の祖国であるコンゴでは「リケンベ」、ジンバブエでは「ムビラ」、ザンビアでは「カリンバ」など、さまざまな名で呼ばれます。そのサウンドは、ピアノともオルガンとも、まったく違います。木琴や鉄琴にも似ているようでまた違う。抜けがよく透明で軽やか、しかもなぜか聴くものの心をかきたてる不思議なパワーがある。たとえるならそれは、熱気あふれるアフリカの草原を吹き抜けていくすがすがしい風、でしょうか。

もともとそれほど大きな音量の楽器ではありませんが、コノノNo.1のリーダー、マワング・ミンギエディは、騒音の多いコンゴの首都キンシャサで

も「先祖の霊に届くように」と、自家製アンプで音を増幅し、パーカッションや歌も加えた独自のサウンドを創造しました。親指ピアノが奏でるところが懐かしく親しみやすいメロディがくり返されながらどんどん展開し(彼らのテクニクはちょっと信じられないような超絶ものです)、熱いパーカッションの響きに乗ってどこまでも盛り上がってゆく。そこへ魂を貫くヴォーカルとダンスが加わる...日本のうだる暑さ、忙しい日常に疲れた私たちを、全身の細胞から目覚めさせてくれる音楽なのです!次号では今や欧米で大旋風を巻き起こしている彼らの音楽の本質やその背景についてよりディープに迫りますので、どうぞお楽しみに。

なぜ「水戸市民会館」で実施するの?

今回の企画は、水戸芸術館音楽部門としてははじめて、水戸市民会館を会場に実施する企画です。「コノノNo.1」はもともと、野外や街路など、より開放的な空間で、アンプで音を増幅し演奏してきたグループです。「生音が豊かに響く」コンサートホールATMの空間よりも、音響設備の整った広大な空間でこそ、彼らの真の魅力をお伝えできる!と判断し、私たちは水戸市民会館に白羽の矢を立てました。築34年、味わいを増してきたこの会場の隠れた魅力については、「ネットマ」をご覧くださいと思いますが、駅からのアクセスもよく(徒歩10分)広い無料駐車場があるこの会場で、「コノノNo.1」を存分に楽しんでいただければ、

写真左;コノNo.1

右;コノNo.1のCD「コンゴトロクス」
(VIVO VIVO-308)
芸術館ミュージアムショップで絶賛発売中!
お店で音も聴けます。



と思います。市民会館のアクセス等詳しい情報は、同会館 TEL029-224-7521 までどうぞ。なおチケットは水戸芸術館及び各種プレイガイドでの扱いです。

映画『ホテル・ルワンダ』って?

今回のコンサートに先立ち、7月23日(日)には関連企画として映画『ホテル・ルワンダ』の上映会を15:00よりACM劇場で行います。この映画はコノNo.1が登場するわけではないのですが、コンゴの近くの国、ルワンダで1994年に起こった大事件を基にした作品であり、コノNo.1も無縁ではないアフリカのタフな現実を知るための最良の作品として、関連上映を企画しました(共催はNPO法人シネマパンチ)。物語は1994年、ルワ

ンダで起こったフツ族によるツチ族の大虐殺(これは民族抗争が直接の要因ですが、欧米諸国による植民地時代の民族政策がもたらしたものです)の最中に起こった実話を基にしています。突如巻き起こったこの大災厄に巻き込まれたのは、ルワンダの最高級ホテル「ミル・コリン」の支配人(演ずるは名優ドン・チードル)。穏健派のフツ族であった彼は、まずツチ族の妻と家族を守るために全力を注ごうとするが、自らのホテルに駆け込んでくるツチ族の難民たち、そしてフツ族によって繰り返される暴虐を目の当たりにし、決死の覚悟で「ミル・コリン」を砦に、人々の尊厳を守ろうとする。国連軍は手を出さず、欧米諸国は見て見ぬふりという絶望的な状況の中、彼は愛する家族を、そし

て1200人もの人命を守り抜くことができるのだろうか…。欧米で話題となり、米アカデミー賞にもノミネートされましたが、重いテーマゆえ日本での公開が少し遅れたこの力作の茨城初公開。ものすごい迫力、衝撃と感動に息もできない2時間2分です。ニック・ノルティ、ホアキン・フェニックスといった渋いキャストも光り、フランスの超人気俳優、ジャン・レノも顔を出しています。アフリカ音楽や踊りも随所に登場。上映前に学芸員による短いブレイクもご用意し、特別価格1,000円でご提供(コノNo.1のチケットと一緒に購入すればさらに200円引き)。ぜひこの上映を、「コノNo.1」への壮大なプレリウドとしてお楽しみください!!(以下、次号に続く) 《矢澤》

最近の公演から MAY



1



2



3



4

ぞうのパバール(5月5日)
デジタル化して復活後、3年目となる『ぞうのパバール』公演。今年は、「おめでとう パバール! 生誕75周年記念」と銘打ったスペシャル・プログラム。本編のパバールはそのままに、前半では芥川也寸志 赤ずきん が、高橋アキの弾き語りで演奏された。プロコフィエフ ピーターと狼 をちょっと思わせるピアノの響きと、ユーモラスな語りが子供たちを喜ばせていた。もちろん本編の『パバール』は今年も絶好調! アンケートに寄せられた子供たちの声を、どうぞご覧ください。みなさん、プログラムについて特別ふるくのパバールハガキ、使っていただけましたか?《矢澤》アンケートから アキさんのピアノのえんそうが、とても上手でした。よなこ(註:長野羊奈子)さんの語りの声がとてもきれいで、楽しかったです(那珂市:T.W.さん 9歳) はなをだして、ねているところがおもしろかったです(日立市:J.K.くん 7歳) どくきのこがこわかった(ひたちなか市:H.K.さん 4歳) けっこんしきのダンスが楽しかったです(水戸市:K.I.さん 8歳) このような良質で上品な催しを子供の頃から楽しめて、水戸芸に来る子供は幸せだなあとと思います(日立市:M.H.さん) 子供が生まれてから、プロの方のピアノ演奏をきくのははじめてなので、感動しました。(中略)子供と一緒に楽しめるコンサートを開いてくださって、ありがとうございます(日立市:T.F.さん)

アンドレアス・シュタイアー
フォルテピアノ・リサイタル(5月12日)
芸術館にはMCOとの共演以来8年振りの登場となるシュタイアーは、驚くほどその演奏に自由さと大胆さを加えていた。C.P.E.バッハのファンタジアの暗い闇のような世界。ハイドンのアンダンテと変奏曲の多彩なアフェクトの表出。トルコ行進曲は意表をついてストレートな演奏だったが、この変化に富んだプログラムにおいては、正解だったろう。最後のモーツァルトのアダージョで音楽は天空の彼方に消え去った。アンコールはハイドン:ソナタニ長調(第50番)Hob. :37から第2、第3楽章、およびモーツァルト:6つのドイツ舞曲K.509に基づくシュタイアーによる自由な編曲。なお、5月19日付朝日新聞に、白石美雪氏による絶賛の演奏会評が載った。《矢澤》アンケートから 真珠とバラの花びらを振り撒いているみたいでした(土浦市:H.I.さん) 小さい楽器ですが、表現の多様性は無限大(水戸市:S.E.さん) 音楽が紡ぎ出され、生まれる瞬間に立ち会っているのを実感できた(水戸市:K.M.さん) 人間技とは思えないすばらしい指さばきでした(水戸市:T.K.さん) モーツァルトはもちろん良かったけれど、C.P.E.バッハの楽しさやハイドンの美しさが印象的でした(那珂市:Y.T.さん) ラスト、C.P.E.バッハとモーツァルトが続けて演奏されたところに不思議な感動があった(水戸市:A.U.さん)

1~2. ぞうのパバール 3~4. アンドレアス・シュタイアー フォルテピアノ・リサイタル



* nettama= ネットワークする猫。タマ。芸術館のコンサートをサカナにいろんなところへnettamaします。

「コノNo.1」会場・水戸市民会館来訪

8月24日(木)に行われる「コノNo.1」の演奏会は、ご存知の通り水戸芸術館ではなく、水戸市民会館で行われる。水戸市民会館に行ったことのある人、手を上げて!お、たくさんいらっしゃいますね。なにに、そのクラシック・ファンの方、「いい感じの広さだけど、少し古くなったよね。あと、もう少し響きが豊かだといいなあ」です?なるほど。しかし、もしそれをネガティブな意味でおっしゃっているのなら、僕は反論したいなあ。なぜならこないだ水戸市民会館をゆっくり見について、「なかなかイぞ!」と思ったからなんだ。

まず「古さ」。水戸市民会館は1972年(昭和47年)築34年になる。芸術館は1990年開館だから、18年先輩だ。しかし34年って、そんなに古いだろうか。人間だったら34歳。人生80年のこのご時世、平均年齢からすればまだ半分も来てない。女性も男性も、いい感じで熟してきてこれから一番充実した時期へとむかう。その入り口あたりの年齢だ。それに、東京文化会館とかヨーロッパに山ほどある古い歴史を持ったホールに比べたら、若い若い。それに響きがドライなのは、決してネガティブなことではない。キレのいい音の音楽には向いているし、ましてや「コノNo.1」のようにアンプを使う音楽では、明らかに芸術館のコンサートホールATMより分がある。

さて、写真もとってきたので、ご紹介しながら市民会館を訪れてみよう。場所は水戸駅から徒歩10分、水戸市役所の敷地内となる。つまりあの広大な市役所の駐車場が当日そっくり使えるわけ(しかも無料)。建物は、ご覧のとおり白亜の殿堂です。



さて、エントランスにアプローチしてみようか。お、この階段の広さ。



コンサートホールATMへの階段の10倍くらいあるぞ。古いのでバリアフリー化されていないが会場に直接入るスロープが外にあるので、車椅子の方でも大丈夫。それにしてもこの赤い絨毯のゴージャス感。カンヌ映画祭か、僕が行ったときには清

掃の方々がいて、きれいに掃除をされていた。ちゃんと管理が行き届いているんだ。

そして入り口近くにはこれぞ純水戸産キャラ、水戸黄門ブロンズ像(with助さん格さん)が。



建物に入ろう。エントランスはこんな感じ。



さすがたくさんあるしテーブルもあるし、飲み物の自動販売機もある。角度を変えて撮るとこう。



水戸らしく梅の絵が飾ってあるね。さて、会場に入ろうか。最後列から舞台を撮ると...



芸術館に比べると、さすがに広い!! そりゃそうだ。千人収容できるものな。でも横長のシューボックスタイプなので、最後列でも決して「遠い」感じはしない。

つづいて舞台から客席を撮らせてもらった。



最前列から最後列までずっと傾斜しているから、どこに座っても見やすい。アップで撮ってみよう。



椅子も上から撮ってみた。使い込まれた感じが、いい味出てますな。



昭和40年代から、数多のコンサートがここで行われた、その歴史が熱気と共に蓄積している。ヴィンテージな味わいを、かも出しはじめているホールだ。

さていったん会場から出て、階段を下りると、お、謎のスポットが。



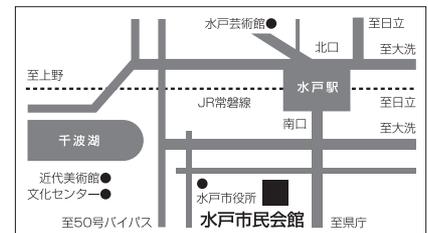
中に入ると、喫茶店があった。



こんなところにあつたなんて、知らなかったぞ。おとしオープンしたらいい。アットホームないい雰囲気だ。しかも中でミニ写真展をやっていた。オーナーの方は、熱い言葉で、お店を通じて市民会館の文化活動に寄与してゆきたいと語ってくれた。すばらしいなあ。

水戸市民会館のスタッフの方々も、チラシやポスターを各所に貼って、来るべきコノNo.1の演奏会を盛り上げてくださっている。皆さん、コノNo.1でいっしょに「水戸市民会館再発見」しましょう!

水戸市民会館のアクセス・マップ



6月号ネットタマの「MCOクイズ」の解答は以下の通りです。問題1: クラリネット協奏曲 第24回定期演奏会(1995年11月)および第42回定期演奏会(2000年6月) 第24回がカール・ライスター、第42回がデミトリ・アシュケナージ 問題2:C(魔笛 序曲のみMCOでは演奏されていない) 問題3:フォルテピアノ奏者(ロバート・レヴィンにはホグウッドと組んでのモーツァルトやベートーヴェンのピアノ協奏曲集の録音がある。モーツァルトのソナタ録音プロジェクトも始まった) ちなみに全問正解者はいらっしゃいませんでした。残念!

